

# 思い出の恩師

福島県立会津短期大学長

高瀬 喜左衛門



## 【筆者紹介】

**高瀬 喜左衛門・たかせきざえもん**

大正 十二年 会津若松市に生まれる  
 昭和 十五年 県立会津中学校卒業  
 昭和 二十年 京都帝国大学理学部物理学科卒業  
 昭和二十一年 会津中学校勤務  
 昭和二十二年 合名会社白木屋漆器店代表社員  
 昭和二十七年 株式会社白木屋漆器店社長  
 昭和二十七年 会津短期大学講師  
 昭和三十年 会津短期大学非常勤講師  
 昭和四十三年 会津若松市長に就任す  
 昭和五十五年 会津若松市長を退任す  
 昭和五十九年 財団法人竹田綜合病院理事長  
 昭和六十二年 県立会津短期大学長

ひとより三文軽い、と言われる「年寄りっ子」だった私は、それと気付かれる間もなくすると膝の上にダッコして「先生、これ読んで」などと、家から持参した本を読んで頂いたりしたものである。一年に入学したばかりのことであった。二年生になると、この先生の夫君が校長になられたので、その当時の慣習に従って退職された。低学年の子供にとつては、母を失うショックに近いものがあつた。

四年生から卒業まで受け持っていたいたのは若い男の先生で、我々の三年先輩の組が一サイクル担任してもらつた後だから、師範を卒業して四年目ということになるうか。

この先生には本当に御世話をおかけした。生まれた時「しなびヤヤ子」だった私は、このころはまだ虚弱で、朝礼の時間すら耐えられず、時々貧血をおこした。そのくらいだから、遠足は楽しかったけれども、運動会は大嫌いだつた。走つてみるまでもなく、大体ビリッコに決まっているのだから。

その私が鉄棒の逆上がりは容易にこなせた。この先生から